

剣道部 活動紹介



2015年11月23日（月）、足立学園高等学校体育館で開催された「高体連第1支部剣道大会」に出場しました。



大会には32校が出場しました。
体育館内にある4つの試合場では、白熱した
試合が繰り広げられ、気合いの入った掛け声
が響きわたっていました。



残念ながら、女子個人戦・男子団体戦とも
初戦突破はできませんでしたが、「引き面」
や「抜き胴」などの技で、相手から一本を
取る場面もありました。

両国高校剣道部の今後の活躍が期
待されます。



両国高校剣道部は、2年生男子3名、1年生男子3名、1年生女子2名の計8名で活動しています。部員のほとんどが初心者ですが、剣道場中央に飾られている「文武不岐」という精神を体現する為顧問の小野澤先生・中西先生の御指導の下、日々稽古に励んでいます。



「文武不岐」とは？

学問と武道は別物でないことを表しており、どちらも厳しい修練をして、人として向上しなければならないという意味がこめられています。



第一支部剣道大会に向け、剣道歴45年以上であり、指導経験豊富な大井校長先生が激励に来られました。



◆ 大井校長先生へのインタビュー ◆

Q 剣道を始めたきっかけは何ですか？

A 「赤胴鈴之助」が流行っている時代で、最初は棒を振り回して遊んでいましたが、中学からスポーツとして剣道を始めました。

Q 恩師の方から影響を受けた、心に響く言葉や精神等を教えてください。

A 中学の時に始めた剣道ですが、高校進学後、専門の先生のもとで3年間指導を受け、自分自身も向上し、良い成績も残せました。この先生の目指してきた道を自分も歩きたいと思い、その先生の出身大学を受け、その後体育の教師になりました。
「言葉ではなく、恩師の背中に」影響を受けました。

Q 1番印象に残った試合を教えてください。

A 勝った試合というのはあまり覚えていません。

「勝ちに不思議の勝ちがあっても、負けに不思議の負けはなし」。

優勝は一瞬ですが、負けた時は悔しさで自分の足りなさに気づくことができます。

Q 剣道精神や人生の先輩として、生徒に一言をお願い致します。

A これからの長い人生、「自分で切り拓いて行く」という元気や活力を学んで欲しいと思います。そのため、辛いことも乗り越えていく「根性であり 我慢強さであり 粘り強さ」を持つと、稽古も上達するし、勉強も頑張れると思います。
本当の文武両道を目指して欲しい。

◆ 小野澤先生へのインタビュー ◆

Q 剣道を始めたきっかけは何ですか？

A 近所に剣道場があり、親に連れていかれたのがきっかけです。ただ、家の引っ越しで、一回止めました。中学校に入った時に、本当に大好きな先生が剣道部の顧問で、また始めました。その先生とは今もお付き合いがあります。

Q 1番印象に残った試合を教えてください。

A これに勝ったら、近畿大会に出られるという大会で勝った時です。

剣道にはガッツポーズは無いけれども、そのくらい嬉しさはひとしおでした。

Q 剣道精神や人生の先輩として、生徒に一言をお願い致します。

A 剣道は理不尽です。相手に打たれたり、自分自身の竹刀でも、自分の思うようにいかなかったりします。それに負けないくらい、「何でもがむしゃらに、一生懸命やること」です。強くたくましく、やり抜く事が大事であると伝えたいです。

